

小さな島 - 関前村からの熱き思い ～漁協婦人部活動について～

関前村漁協婦人部
桧垣美穂

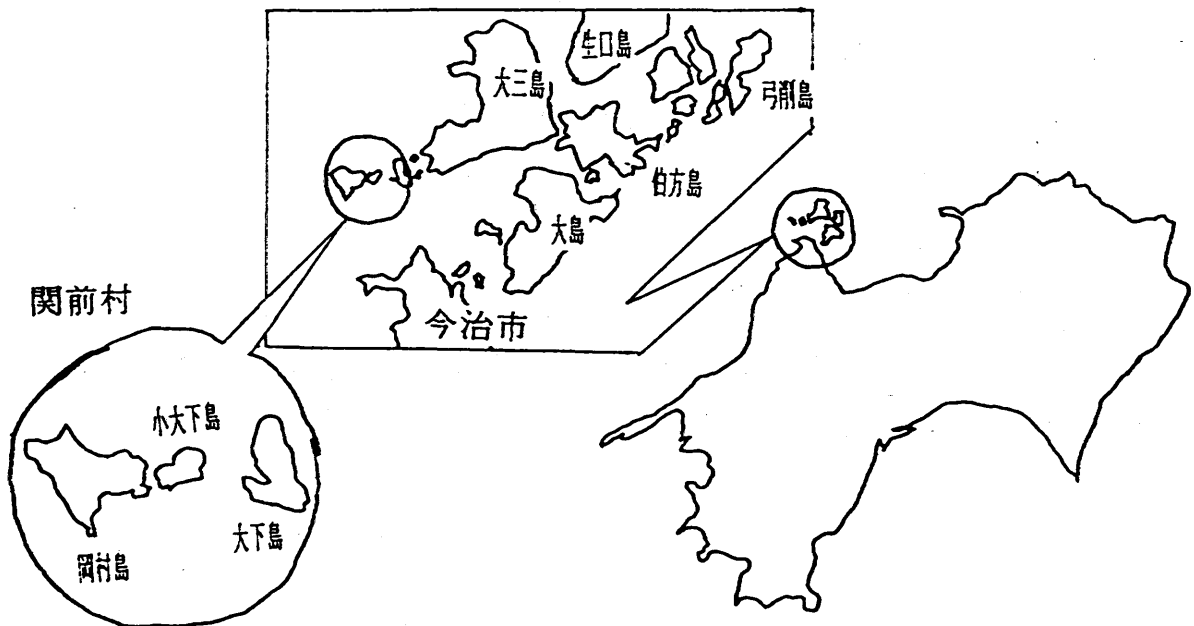
1. 地域と漁業の概況

私の住んでいる関前村は、愛媛県今治市より北西約20Km、来島海峡を渡りフェリーで1時間程の瀬戸内海に浮かぶ小さな3つの島（岡村小大下・大下）で構成され、人口約1,100名で、全国第3位という高齢化が進んでいる島でもあります。

水は、小大下島から海底をとおり、岡村島まできておりますが、水不足の現在、7時間断水で不便をきたしております。

また、岡村島には、1,600年前の古墳が見つかり歴史的にも注目を集めております。

漁協組合員数82名（正組合員47名・准組合員35名）、主な漁業形態は、さわら流網・一本釣り・はえ縄・たこつぼ等の漁船漁業とミカン栽培で生計を樹てております。



高齢化が進んでいるとはいえ、少ないながらも若者もまだまだおりますので、離島の共通の悩みのひとつである嫁不足が我が関前村にもあります。

一昨年、全国的にもテレビ放映されましたので、ご存じの方もおられるかと思いますが、「嫁こい・春こい・夢よこい」をキャッチフレーズにお見合い大作戦が行われました。

私たち漁業者も協力することとなり、大漁旗を大海原いっぱいになびかせて、全国各県からのお嫁さん候補を出迎えに行きました。

都会の女性たちにとって、大漁旗での出迎えは大変印象的であったようです。

棧橋では、郷土芸能の獅子舞や、小学生による鼓笛隊など村はじまって以来の一大イベントで大変な盛り上がりとなりました。

結果、何組かのカップルも誕生し、二世誕生の声も聞くようになり、明るいニュースをもたらしているこの頃です。

2. 関前村漁協婦人部の活動と運営

私たち漁協婦人部は、狭い島であるがために、常に“みんなが仲良く”を合言葉に、昭和30年に結成されました。

部員数は70名で、会費を始め各種イベント参加で得た収益や漁協からの助成金等、年間約30万円（平成6年度）で運営しております。

活動としましては、

- ① 花いっぱい運動（漁港美化促進事業）
- ② 海岸清掃
- ③ 水産物の加工研究
- ④ 合成洗剤追放運動

等、漁業者としての考えに基づいた活動は勿論のこと、地域に密着した活動にも心掛けております。

3. 活動状況及び成果

① 花いっぱい運動

以前から、部員たちの中に、乱雑になっている漁港周辺をきれいにしよう！花を植えて漁から疲れて帰って来る主人たちに安らぎを持ってもらいたい！との声があがっていましたが、実行に移すまでには至っていませんでした。

平成3年度、愛媛県漁港協会より漁港周辺の環境美化に取り組む活動に対し、助成があることを知り、役員会で協議した結果、早速、取り組むこととなりました。

しかし、漁港には花壇がないため、プランターに植えなければなりません。

港内6カ所に100個のプランター設置を決め準備に入ったのですが、土を集めることから始めなくてはならず、プランター100個分の土集めは思った以上に大変な作業でした。

水やり・草とり・枯れた花の整理等々、当初2年間は、全員の協力のお陰で、全国漁港協会から表彰して戴くことができました。

このようなりっぱな賞を戴いたことが励みとなり、部員さんたちはいままで以上に、気にかけてくれるようになりました。また、いつしか、部員だけでなく、息子さんや娘さん・ご主人方までが水やりや草とりをしてくれるようにもなりました。

忙しい漁の合間にする花づくりに対して、好意的な声ばかりがあったわけではありません。

しかし、時の経過とともに、誰もの心の中に可憐な花が賢明に咲き日頃の疲れを癒してくれているのに気づき自然と手をかさずにはおられなくなっていたのではないかと思います。

漁協の玄関先にもプランターがおかれ、訪れる方々の目を楽しませています。

これからも精一杯手入れをし、私たちの職場である港を大切にして四季折々の花を咲かせて行きたいと思っております。

② 海岸清掃

毎年3回、私たち漁協婦人部が中心となり実施しております。

また、7月20日の“海の記念日”には、役場の協力も得て、中学校・青年・婦人会等が参加し、数班に分かれて清掃活動をおこなっております。

平成6年度には、役場より「リフレッシュ瀬戸内」への協力依頼を受けましたので、快く承諾し、以来漁協婦人部が中心となって実施しております。

掃除道具の管理等も全て任せて載っておりますので、部員の方々から“期待に応えなくてはいけないね！”との声を聞くようになりました。

このような、部員の方々の思いが、次第に伝わってきたかのように、参加者も増えてきました。

島に住み、半農半漁の私たち住民にとりまして、海への熱い思いは、島民全員の中に根付いているのではないかと思います。

③ 水産物の加工研究活動

平成3年、我が関前村に加工場ができ、役場から地域産業の活性化の一助にもつながるので、漁協婦人部も積極的に施設を利用して下さいとの声を戴き、早速、アナゴのみりん干しを工業技術センターに行き、基礎知識から指導戴き、その後の加工への取組みにも大きく役立っております。

ひとつの物に満足せず、さらなる研究を心がけ、サバのみりん干し、グチの干物等にも取組みました。

製品は、島で行われるイベント等には必ず出展するようになりました。

イベントへの出展は、日頃の私たちの研究の成果が問われる事もあり、不安もありましたが、毎回、大変好評ですぐに完売となるため、ひと安心すると同時にうれしさもひとしおです。

さらに、島外で行われる漁協婦人部のイベントの際にも出展し、好評を得ております。

誰からともなく、“次は何を勉強する……?”という声にのって、現在、「鯛の生菓子」づくりに挑戦中です。

④ 合成洗剤追放運動

なかなか目に見えた成果が上がりにくい取り組みですが、休む事なく続けなくてはいけない運動のひとつがこの“合成洗剤追放運動”であると思っております。

私たち、関前村漁協婦人部としましても、長年に渡り、取組んでおりますが、成果を上げるには至っていないのが現実です。

しかし、機会あるごとに、説明や水槽実験を繰返して運動の推進に努めております。頭では理解できていても、実際は中々進展しないので、目で見てもらおうと実施した水槽実験には、想像以上の衝撃を受けたようで、台所洗剤、洗濯石けんなどを中心に売れるようになりました。

また、総会の記念品としても、わかしお石けんを利用しておりますので、ひとりでも多くの方に、合成洗剤の恐ろしさを知り、石けんの良さを見直していただけることを期待しております。

4. 波及効果

- ① 花いっぱい運動に取組んだことにより、“花”を通して年齢層を越えた活動が持てるようになったこと・部員同志の気持ちがひとつになれたことは、大変よかったと思います。

尚、私たちの花いっぱい運動への取組みがきっかけとなり、各家庭でも花を植え、庭先や道路わきのあちらこちらでも色様々なきれいな花を見かけるようになりました。

また、廃船となった小さな船を蘇らせ、花だんに利用しました。

平成7年度のブロック研修会には、当番地区にあたっていたことも

あり、昔から現在にかけてのさわら流網の漁法の移り変わりを再現し、伝承しようと、せりふを考えることから舞台道具づくりまでの全てを全員の結束のもと、協力して戴き、参加者の方々からの喜びとお互いへのねぎらいの声を聞いた時は、私も、関前村漁協婦人部の70名の中のひとりであることを誇りに思うと同時に、部員がいるからこそ、私たち関前村漁協婦人部の活動ができることを忘れてはならないと身にしみて感じさせられました。

- ② 役場からの依頼にも快く協力していることから、今や漁協婦人部は我が関前村にとってたのもしい組織として認めていただけるようになりました。

また、役場が中心となり、各種団体で構成されている“関前村活性化推進協議会”にも部長・副部長が構成メンバーの一員となって活躍しております。

年2回（会費1万円）のふるさと小包発送のときは、私たちもヒジキやワカメを入れるよう協力しております。

5. 今後の課題

研究を重ねてきた加工品の数々も近い将来、ふるさと小包の1品として加えて戴けるよう、今まで以上に研鑽に励むと同時に“関前村漁協婦人部の味”の確立に努めなければならないと気持ちを新たにしております。

現在、部員70名が一致団結して活動に取り組んでいますが、新しい部員の加入がない為、将来につなげた婦人部活動の進めべき道を思うと不安をいだかずにはおれません。

しかし、お見合い大作戦が大きな反響を呼び、成果を上げたように、みんなが思いをひとつに努力と実行に努めれば、必ずや大漁旗を大空いっぱいになびかせることができるものと信じて、これからも漁協婦人部活動に誇りと勇気を持って取組んで行きたいと思えます。